

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077900159
法人名	医療法人 福田病院
事業所名	グループホームとまと
所在地	福岡県三潴郡大木町大字大角1133-3 (電話) 0944-75-2345

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	H21年 11月 5日	評価確定日	H21年 12月 15日

【情報提供票より】 (平成21年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	18 人	常勤	17人	非常勤	1人	常勤換算	4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋スレート 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年10月20日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	13名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	74歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 福田病院 . 大石歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

車道から少し入った場所に位置する事業所は特別養護老人ホームと隣接し、周辺はゆったりと穏やかな雰囲気がある田園と家並みの中で地域にじっくり溶け込んでいる。利用者の共用空間は、2ユニットを1フロアーにした、ゆったりと開放感のあるリビングになっている。利用者一人ひとりに配置された担当職員が本人の希望を聴取しながら、魚釣り・ダンスホール・外食・一時帰宅して自宅の飼犬の様子を見る等、個々に応じた利用者本位の「自己決定」を尊重している。また、今まで営んできた馴染みの暮らしや生活の継続を支援し、職員が一丸となって理念の実践に向けて日々取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題について、改善計画シートを作成し「市町村との連携」は、行政担当者に事業所の近況報告や相談し、包括支援センターの協力を得る等、評価を活かして改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で前回の評価を振り返りながら取り組み、管理者が意見を集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、理念と日頃の取り組みについて等の説明や報告をしている。委員の意見で、小学校の下校時見守り隊に参加したり、家族来訪の度に利用者の介護記録を提示しながら説明するよう取り組む等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置し、家族会がある。家族等の来訪時には積極的に意見や要望等を聴取するよう努めている。事業所以外の第三者相談窓口は、利用開始時に説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、事業所便りやイベントの誘いを地域に配布している。地域行事や小学校の下校時見守り隊に参加し、近隣の中学校や短期大学生の実習生を受け入れ、地元の人々と交流を深めるよう努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今まで営んできたなじみの暮らしの継続の支援及び地域の一員として生活する支援等、地域密着型サービスの視点を含んだ事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ミーティング時に理念を復唱し、自己決定の尊重等、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。また定例の全体会議で理念について話し合いの機会をもち、意識づけをしている。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、事業所便りやイベントの誘いを地域に配布している。地域行事や小学校の下校時見守り隊に参加し、近隣の中学校や短期大学生の実習生を受け入れ、地元の人々と交流を深めるよう努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で前回の評価を振り返りながら取り組み、管理者が意見を集約している。前回の改善課題について、改善計画シートを作成し「市町村との連携」は、行政担当者に事業所の近況報告や相談し、包括支援センターの協力を得る等、評価を活かして改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、理念と日頃の取り組みについて等の説明や報告をしている。委員の意見で、小学校の下校時見守り隊に参加したり、家族来訪の度に利用者の介護記録を提示しながら説明するよう取り組む等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、行政担当者に事業所便りを持参して定期的に近況報告や相談をし、包括支援センターの協力を得る等して、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員は、制度に関して外部研修及び研修報告にて学ぶ機会を持ち、理解を深めている。家族等へは、家族会開催時に説明している。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回、利用者一人ひとりにあわせた事業所便りを作成し、家族へ送付している。家族等の来訪時には状況報告をし、健康状態変化時等は看護師より電話連絡を行っている。金銭管理については、家族来訪時に出納帳を明示し、確認の署名をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族会がある。家族等の来訪時には積極的に意見や要望等を聴取するよう努めている。事業所以外の第三者相談窓口は、利用開始時に説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は利用者と職員との馴染みの関係を重視し、日常的に職員と十分にコミュニケーションを図り、異動や離職を最小限に抑えるよう努力している。やむを得ず離職の場合は、引き継ぎ期間を十分に設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、公平性を持ち、性別や年齢で採用対象から排除しないようにしている。職員がそれぞれの能力を発揮しながら、社会参加や自己実現ができるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人代表者は人権教育の重要性を認識し、全職員は外部研修または伝達研修で、人権教育に取り組んでいる。テキスト・パンフレット・研修記録がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は全職員が日常的に学ぶことを推進し、外部研修等の案内は、職員の目につきやすい場所に掲示して周知している。職員は希望する外部研修を受講し、また働きながら資格取得できるよう配慮している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者ネットワークに加入している。管理者や職員は、他県の事業所も含め相互訪問や見学をして交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学や面接を行い、本人と馴染みの関係を築くよう取り組み、家族等と相談しながらサービスを開始している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理指導や工作等、利用者の得意分野で力を発揮してもらう場面がある。職員は、利用者から学び、支えあう関係を築いている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、家族からの情報や日々の関わりの中で声をかけ、一人ひとりの思いや希望の把握に努め、支援している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向や希望を尊重しながら、個別具体的な介護計画を作成している。また、利用者の担当者が中心となり、職員の意見や気づきも介護計画に反映させている。家族へ介護計画を説明し、同意に関する押印をもらっている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月モニタリングを実施し、また利用者の状態変化や状況に応じて、その都度介護計画を見直している。日々の記録がモニタリングやケアプランの見直しにつながるよう独自の工夫がある。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した際は、医療関係者や家族と連携を図り、早期退院に取り組んでいる。本人や家族の状況に応じて、通院等は個別に対応している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を尊重し、かかりつけの医療機関での受診を支援している。また、母体病院の主治医が週1回往診を行い、事業所の看護師と密な連携を図っている。家族等へ事業所の看護師が電話で状況報告をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について事業所の指針があり、折に触れて家族に説明している。利用者ごとに、本人や家族、主治医、全職員で話し合い、方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した声かけや対応をしている。全職員は、個人の尊厳・プライバシー保護についてミーティングや内部研修で話し合い、対応を徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが一人ひとりの状態や気持ちに配慮しながら、柔軟に対応している。レクリエーションやドライブ・外出は本人の希望や生活歴を把握し、希望にそって個別に支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は、一緒に準備や片付けを行っている。職員は利用者と同じ内容の食事を同じテーブルで食べながら、利用者とは話し、声かけ・介助を行い、利用者が楽しんで食事ができるよう配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望にあわせて柔軟に対応している。入浴拒否する利用者に対しては、対応する職員を替えたり、時間をずらすなどの工夫をして入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者のできることや得意なことを把握している。調理、野菜作り、梅干し・らっきょう・干し柿・うどん作り、金魚の餌やり、ダンス、魚釣り等、楽しみごとも含めて、一人ひとり支援している。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に応じて、散歩や外食、ドライブ、神社参拝や仏壇参り等、本人の自己決定を促し支え、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向等を把握し、見守りを行っている。近隣や近くのタクシー会社、警察等に見守りや声かけを依頼している。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年2回、消防署及び地域住民の参加協力を得て、避難訓練を実施している。各居室の表札の裏に利用者の氏名及び誘導方法の留意点を記し、第三者にも分かりやすい仕組みを作り上げている。非常用食料・飲料水・備品を準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が、全利用者分ある。アセスメントで利用者の嗜好を把握し、その都度希望を取り入れながら、栄養士が栄養バランスやカロリー計算等のチェックを毎週行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者や家族、職員が作成した絵や飾り物で彩られ、ゆったりしたソファ等を複数配置し、季節感あふれる居心地のよい雰囲気がある。光の強さはカーテンで調節し、音の大きさに配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた小筆筒、椅子、テレビ、冷蔵庫等を持ち込み、位牌・思い出の品・写真や人形等が飾られている。利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。